沖縄県企業局中長期計画の全体像

第3章 現状と課題 / 第4章 今後の事業環境

1. 水源と水質［安全］
（1）水源の確保
（2）水道水質の安全性確保
（3）水源の保全

2. 水道施設［安定］
（1）施設の整備状況
（2）施設の老朽化
（3）災害への備え

3. 経営［持続］
（1）経営の状況
（2）組織・人材の育成
（3）国際協力

4. 県民ニーズへの対応と社会的責務［安全・安定・持続］
（1）水道の広域化
（2）広報・広聴の取組
（3）環境への取組

1 水需要の見通し（人口減少社会の到来）［安定・持続］

2 施設更新期の到来［安定・持続］

3 水道広域化の進展［安全・安定・持続］

4 災害対策の多様化・高度化［安定］

5 技術力の維持・継承［持続］

第1章 策定趣旨・計画期間

［第9次沖縄県企業局経営計画］
（実施期間）
平成26年度から平成29年度

継承

［策定趣旨］
◎「第9次沖縄県企業局経営計画」の終了にあたり、東日本大震災の経験等を踏まえた災害に強い水道の構築や、県内水道サービスの格差解消を図る手段としての水道広域化への期待の高まり、今後予測される人口減少社会の到来など、水道事業を取り巻く環境の変化、高度化・多様化する県民ニーズに適切に対応し、健全かつ安定的な事業運営の持続を目的として策定
［計画期間］
◎計画期間は平成30年度から平成49年度（20年間）

［新水道ビジョン）］ ※厚生労働省
水道の恩恵をこれからも享受できるよう、今から50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、その理想像を具現化するため、当面の間に取り組むべき事項、方策を提示策定する

［経営戦略］ ※総務省
将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが可能となるように中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定する

第5章 基本理念

«基本理念» 「安全な水、安定的な供給を未来につなぐ沖縄の水道」

安全	•安全な水の供給
安定	•安定した水の供給
持続	•健全かつ安定的な事業運営の持続

四つの施策目標

財政見通し

第5章～第6章 施策目標・施策・取組

施策目標1：安全で安心な水の供給（安全）

施策1. 水質管理の充実［6］
水質の管理、トリハロメタン低減化対策、クリプトスポリジウム対策、かび臭低減化対策、硬度適正化対策、受水事業体との連携強化

施策2. 取水施設の適切な管理と水質課題への対応［2］
取水施設の適切な管理、PFOS等未規制物質の対策

施策目標2：安定した水の供給（安定）

施策3. 計画的な施設整備と維持管理［5］
アセットマネジメントの手法を取り入れた長寿命化対策と施設整備、工事に関する総合的なコスト縮減、設備仕様の汎用化・標準化の検討、水源の確保・整理、供給施設の適正化

施策4. 災害・事故に強い水道の構築［2］
危機管理体制の拡充強化、施設の減災対策の推進

施策目標3：健全な経営の持続（持続）

施策5. 経営基盤の強化［5］
経営管理の強化、企業債残高の抑制、遊休施設（遊休地）の活用・処分、ICTによる業務の効率化推進、システムによる施設管理の効率化推進

施策6. 効率的な組織づくりと人材の育成［3］
効率的な組織の整備、人材の育成、国際協力の推進

施策7. 工業用水の需要開拓［1］
工業用水の需要開拓

施策目標4：県民に信頼され満足度の高い水道（安全、安定、持続）

施策8. 広域化の推進［1］
広域化の推進

施策9. 情報公開の推進［2］
広報活動の充実、歴史的資料の集積

施策10. 環境への対応［2］
省エネルギー対策の推進、建設副産物等リサイクルの推進

反映

第7章 投資・財政計画（二〇年間）

財政見通し

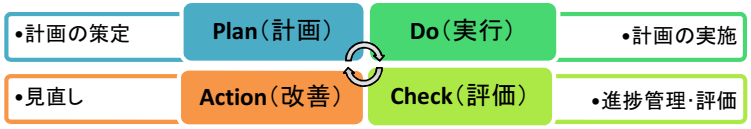
水需要の予測
・推計期間：H28～H77(50年)
・最新の人口推計等を基に水需要を予測（将来的には減少の見込み）

投資試算
・試算期間：H30～H77（概ね50年間）
・必要な供給能力に応じた投資

財源試算
・試算期間：H30～H49（概ね20年間）
・国庫補助金等は現行制度等が維持
・企業債は、世代間の負担の公平に考慮
・投資費用の圧縮、経営の効率化を進めてもなお、財源が不足する場合は、対応方策を検討・整理

評価

第8章 進捗管理

目標達成に向けた取組の管理［PDCA］

取組を着実かつ効率的に推進するために、PDCAサイクルにより定期的に進捗状況を把握し、評価と見直しを行う。